

感動は子どもの心をはぐくむ

# 見つけよう自然の中の驚き・不思議

自然の中には、私たちの心ときめかせる驚き・不思議がいっぱい。幼少期に自然の中でたくさん感動し、気づきを重ねると、心をはぐくみ、探究心や自主性を伸ばします。お子さんと自然の中を歩き、いっしょに楽しみましょう。

## 一緒に歩いて、感動を共有しよう

**hint 1** 植物や昆虫、鳥、自然現象に「何で?」「すごい」と子どもは関心を示したり、驚いたりします。無理に名前を覚えさせようとせずに、子どもと感動を共有しましょう。



森で

## いろんな葉っぱを探してみよう

**hint 1** 木々の葉にはいろんな形があり、緑の濃さも違います。まずは庭や近くの公園に出かけてみましょう。

**hint 2** 紅葉して葉を落す木と、葉がいつも緑の木があります。葉っぱを触って、どちらか当ててみましょう(落葉樹の葉は軟らかくサラサラし、常緑樹の葉は硬くツルツルしています)。そして秋にも一度行って確かめましょう。

## いろんな花を探してみよう

**hint 1** 野山にはさまざまな色、形、大きさの花があります。いろんな花を探してみましょう。きれいな色の花は虫に花粉を運んでもらっているのです。



**hint 2** 風で花粉を運んでもらう花は、目立ちませんと、どんなものがあるか探してみましょう。稲の花がその一つです。稲の花を探してみましょう(コシヒカリの開花は8月上旬で2〜3時間ほどしか花を開きません)。



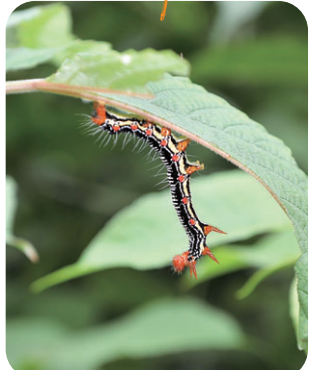
コシヒカリの花

田んぼで

## アリなどの昆虫を探してみよう

**hint 1** 一列に歩いているアリの観察をしてみましょう。何か運んでいるかな。穴から土を運び出している時は、巣をつくらしているか、修理しているのかもしれない。食へ物にするために、他の虫の死骸を運んでいる時もあります。

**hint 2** 花をじっと見ているとハチが飛んでくることがあります。また草花の茎や木の枝に、虫がいることもあります。動きを観察してみましょう。



畑で

頭はどっち?

## 命のつながりを感じてみよう

**hint 1** 春早くに花を咲かせたタンポポも、5〜6月には種を飛ばし、その後、枯れます。でもタンポポは、他の草が枯れていく秋に芽を出し、雪にも耐えて春を待ちます。



タンポポの花

通学路で

タンポポの種

**hint 2** 虫が飛んでくる花は、虫に蜜を吸われる方で、花粉を運んでもらって種をつくりまわす。



河原で

**hint 3** 昆虫の死骸は、アリなどの他の虫や土の中の小さな生きもの(微生物など)が食べて、生きる力になります。

**hint 4** 私たちは稲の種(つまり米)や野菜、肉、魚などを食べて生き、次の代に命をつないでいきます。鳥も動物もみなそうです。



野原で

## 違ったタイミングで見てみよう

**hint 1** 同じ場所でも、子どもは前とは違った感性でとらえますから、季節を変えて何度でも行って、変化を楽しみましょう。

**hint 2** 雨上がりの葉っぱの上には、水滴がいっぱい。角度を変えて見ると、太陽の光に輝いてとてもきれいです。クモの巣にも、小さな水滴がたくさんついているので探してみましょう。



雨上がりのクモの巣

**hint 3** 身近な里山の林道(車が通ることができないほどの幅のある林道)を、懐中電灯を持たずにナイトハイイクしてみましょう(ただし日中に安全確認はしておく。暗闇で数分間じっと待つと目が慣れて見えるようになります。林道に月の光が差し込むと、とても明るく感じます。ヒモ状のものが出ていない服装(長そで、長スボン)で、安全に気をつけて、子どもと一緒に歩きましょう。靴はソックで、軍手着用。



里山で

ナイトハイイク。基本的に懐中電灯は使わない(懐中電灯は大人が持つ)。



星もきれいに見えるよ。

初夏の弥陀ヶ原



一生に一度は立山へ

植物や昆虫の名前については、必要性や関心が高まった時に覚えたいでしょう。関心が低い時は覚えることができません。子どもと一緒に自然の中を歩く時の、目の向け方のヒントを上にもたでも一例です。園児や低学年の児童の場合は好奇心を膨らませる方向に少し導くだけでいいのです。当施設のホームページには自然との触れ合いのヒントを紹介していますので、ご覧ください。

国立立山青少年自然の家 <http://ateyama-nive.go.jp/>

アドバイスをいただいた方  
国立立山青少年自然の家  
工藤一孝 先生  
岩城 俊平 先生



ハイキングコース「トントンの森」の入り口。夏、秋、冬の3枚の写真を子どもたちに見せて「今日はどれに近いかな」と言って出発。

## ボーイ&ガールスカウトの自然体験 海でも山でも、元氣いっぱい

ボーイスカウトガールスカウトでは、活動の中に自然体験も取り入れています。ボーイスカウト水見第2回ビーバー隊は「氷見クリーン作戦2011」に参加し、海岸でプラスチックゴミを回収しました。



ボーイスカウト水見第2回ビーバー隊の中村さんと、五十嵐優子さん(ともに2年生)は、「砂浜がきれいになったらうれしい」「ハマナスのピンクがきれいだった」と海岸での活動を楽しんでいました。



ガールスカウト富山県第41団では、さつま芋苗の植付けを行いました。この活動は、植物を育てることの大変さや自然環境を守ることの大切さについて意識を持ってほしいとの願いから、行われています。岩魚のつかみ取りは、県内10の団が利賀で合同キャンプをした時に行いました。

## とやまのふれあいスポット アクアパーク



再生処理した水を利用してつくられた親水公園。幅121mの滝は壮観で、水の音を聞くと涼しくなります。水遊びができ、トミヨメダカ、ザリガニの観察もできます。

所在地 ●黒部市堀切1188 開放時間 ●終日  
通水時間 ●10:00~22:00 入場料 ●無料  
TEL ●0765-54-4761 (問合せは、黒部浄化センターへ。平日のみ)  
5月から新しく足湯も利用できるようになりました。

## もみ子先生の おもしろ実験教室

身近な材料で科学の実験。「すごい」「なんで」と子どもは興味津々。

## うがい薬できれいな絵を描こう

**用意するもの** うがい薬(茶色のもの)、じゃがいも(削いたあとの皮)、水、小さなカップ、紙(コピー用紙、レポート用紙など)、筆

**実験のタネ** 茶色の液で描いたのに、なぜ青紫色に?これはヨウ素デンプン反応で、うがい薬に含まれているヨウ素がデンプンと反応して変色しているのです。紙は製造の過程で、繊維を固定する、ペンの滑りをよくする、インクのシミを防ぐためにデンプン処理されています。ただし、キッチンペーパーの中にはデンプン処理されていないものもあります(つまり変色しない)。いろんな種類の紙や他の食べ物でも試してみましょう。

**実験手順**  
① カップにうがい薬、水を入れ、うがい液をつくる(実際の用例より濃いめに)。  
② ジャがいもの皮の、実の部分に、筆でうがい液をたらす。何色になったかな?茶色の液をたらしたのに、青紫色になったでしょう。他の野菜や果物の皮でも試してみよう。  
③ 今度は、うがい液をつけた筆で、紙に絵を描いてみよう。また青紫色の絵になったでしょう。不思議だね。

女でんじろうをみさず池田もみ子先生のホームページ <http://www.destin.jp/>